

コロナワクチン接種は、はるか彼方に……

東京都で新型コロナウイルスの感染を抑え込めないまま緊急事態宣言が解除されて、1か月も経たないうちに、新型コロナウイルスの感染再拡大、急増により、4月12日～5月11日まで、「まん延防止等重点措置」が適用されることになった。ところが国や東京都は、根本的に感染拡大を抑え込む対策は取ろうとせず、相変わらず国民に危機感をあおり、時短営業と外出・移動自粛、会食のマスク着用を呼びかけるなどの個人の感染対策任せにしている。

このままでは、東京都の1日の感染者数は、早晚、大阪を追い抜いて急増すると予測されている。都民の方も自粛疲れで危機感は薄れているようで、週末などの人出は増えている。今回の感染は、変異株が増え、飲食店だけでなく、学校、保育園、児童施設、職場、スポーツの場でも広がっているのが特徴だという。

そうした中で、65歳以上の高齢者へのワクチン接種がようやく始まった。八王子市在住の私のところにも、市役所からワクチン接種券が届いた。優先順位として医療従事者に続き、重症化リスクの高い65歳以上の高齢者へのワクチン接種が開始されるという方針に沿ったものだ。

八王子市では、4月12日～23日までの間に、わずか1900回分の接種という少なさだ。そして、ネットと電話で先着順で受け付けるといふ。八王子市の65歳以上の高齢者は約16万人いる。案の定、予約はわずか90分で終わった。一人暮らしの高齢者などには、予約は難しい。その後、市の対応に対して苦情がきているという。次回の予約受け付けは、ワクチンの供給時期が未定でまだ行われていない。公表されているのは、5月以降の接種予定日と会場のみである。ちなみに、千代田区は、65歳以上の高齢者へのワクチン接種券すら配られていない。

一般成人の接種、大幅遅れの可能性

私は、あまりの接種数の少なさから、予約を取るのには、難しいと判断し、ネットも電話もしなかった。それと、ワクチンの効果がどれくらいあるのかの様子見と副反応の心配もあり、予約しなかったというのが本音でもある。また、ワクチンを接種していても感染することがあるのも影響している。

なお、ワクチンに効果があるのは間違いないようだ。イギリスでは、死亡を防ぐ効果があり、多くの高齢者の命が救われているという。免疫が作られ、感染も7割から8割程度は防げるという。いずれは、集団免疫効果が発揮され、流行を抑えることができるという。従って、接種することにこしたことはない。

4月9日、ワクチンについて、全国の3600万人の高齢者が2回接種するのに必要な量を、6月中に確保する見通しがついたと河野大臣は述べた。このとおり確保できても、各自治体で一度に接種することはできないので打ち終わるまでには相当時間がかかる。東京の65歳以上の高齢者の接種が終わるのも、当初予定より大幅に遅れ、8月になる見込みだそうだ。

そうすると、東京オリンピックの開催時期までには、65歳以上の高齢者と一般住民へのワクチン接種は全く間に合わないことは明らかだ。一般住民へのワクチン接種時期は、今のところ全く見通せていない。「コロナワクチンは遠くになりけり」である。

今、新型コロナウイルスの感染が再拡大、急増しているのに、高齢者の接種を行うのに、医療従事者の確保が難しくなっている状況がある。接種のスケジュールがさらに遅れるのではないかと懸念されている。

五輪強行開催は、国民のいのち軽視だ

さて、菅首相と小池都知事は、新型コロナウイルスの感染再拡大、急増を気にはするが、東京オリンピックの開催準備は予定通りに進めている。

今は、新型コロナウイルスが再拡大、急増していても、オリンピックの開催時期にあたる7月末から8月にかけて、感染者数の波を低い状態に推移させられればオリンピックは開催できると考えているようだ。さらに、緊急事態宣言さえ出されなければ、オリンピック開催はできると関係者は言う。また、日本の死者数で一番多いのが「がん」によるもので、それに比べればコロナの死者数はかなり低いから、それなりの対応でよいのではないかと考えていると言われる。国民の命が軽視されていると言わざるを得ない。

そして、新型コロナウイルスの感染再拡大、急増を受けて、医療従事者やボランティアなどの確保が難しくなり、東京オリンピックの運営上、支障をきたすのではないかと懸念も出ている。

菅首相は、1月の施政方針演説で、「東京オリンピック、人類がコロナに打ち勝った証に」と開催に改めて意欲を示した。この言葉に責任をもって、東京オリンピックの対応を考えてもらいたい。

オリンピック開催に固執するなら、オリンピック開催国として、集団免疫を発揮できる数のワクチンを優先的に確保するくらいしないとダメではないのか。

東京オリンピックに関わって、日本代表選手に優先的にワクチン接種を行うという話が出てきている。65歳以上の高齢者に接種が始まったばかりで、医療従事者も完全に終わっていないのに、代表選手優先とは、国民の命よりもオリンピック優先かと批判が出るのも当然だ。

今年1月、I O Cが出場選手に優先的にワクチンを接種するという話が出たが、世界から「優先順位が違う」と猛批判され、撤回している。日本は、そのことを知らないのだろうか。

ここ連日、水泳の池江璃花子選手が病気から復帰して、代表に選ばれる活躍をしている姿が感動的に報じられている。私も、凄いなと思い、拍手を送っている。聖火リレーも毎日報じられ、東京オリンピックを盛り上げようとしている。しかし、新型コロナによる国民の命と健康へのリスクを冒してまで、東京オリンピックを開催する意義があるのか、疑問が投げかけられている。そこで言われているのは、もはや国家の名誉とオリンピックビジネスのためだけにやるしかない、止めるに止められないというものだ。国民や主役であるはずの選手が置き去りされていると思う。

小池都知事は、「まん延防止等重点措置」が出されるにあたって、「人の移動の自粛、「GW中の旅行は延期を」と訴えている。昨年と同様、「ステイホーム」しろということだ。

そうだとしたなら、海外からの人も含めて多くの人の移動を伴う東京オリンピックは開催するのが難しいという話になるのではないかと。そこに行きつかないのなら、都民の命と健康を預かる都知事としては失格である。

先進国のなかでも遅れているワクチン接種、なぜ？

さて、日本のワクチンの接種状況だが、4月9日時点で159万回、人口のわずか1%弱である。世界で一番接種が進んでいるのはイスラエルで、人口の60%、イギリスは人口の46%、アメリカは、人口の36%が接種している。日本との差は歴然だ。

なぜ、こんなに差があるのか。外国製ワクチン頼みだけだからだ。

また、日本製のワクチンがなぜ開発されないのか、皆、疑問に思っている。ずばり、日本には、ワクチンの研究施設・設備も人材も不足しているからさうだ。

国内の製薬会社に昨年からの治験に入っている2社があるが、いつ実用化できるか見通しはたっていない。国は、2021年度予算で、ワクチン開発支援に478億円を計上したが、1年遅い。

開発できていない背景には、ワクチン開発に対する国の戦略の乏しさがあるという。また、日本では、ワクチン接種による副反応をめぐって訴訟が続いたことも要因にあるようだ。訴訟が製薬会社のワクチン開発を消極的にさせてきたのだ。例えば、子宮頸がんワクチンによる副反応をめぐって、国と製薬会社に賠償責任を求める裁判が起こされている。

こうして、日本のワクチン産業の脆弱な体制が続いていた時に、新型コロナの感染拡大が起こったことで、素早い開発の対応ができなかったのである。

新自由主義政策により、社会保障や医療体制、保健所を削減してきたことなどが、新型コロナ感染拡大の中で、大きな問題として浮かびあがった。ワクチン開発の脆弱な体制も浮かびあがった。

国は、新型コロナ感染拡大から国民の命と健康を守るために政策の転換をしなければならないはずだ。そうしなければ、国民の命と健康は守られない。

ところが、今、75歳以上の高齢者医療の窓口負担2倍化法案、病院の病床削減を促進する法案が国会で審議されている。国は、新型コロナの感染拡大から何も学ぼうとしていない。こんな国は、変えなければ、国民が不幸にあえぐだけである。

(千代田区労協議長 小林秀治)

*千代田区労協通信バックナンバー／http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news.htm

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。